

情報公開内容

課題名： 腹部MRIにおけるアーチファクト低減技術の有用性の検討

本研究の目的

腹部MRIは肝腫瘍診断や胆管・膵管の評価には必須の検査ですが、腹部MRIは呼吸や消化管蠕動などの動きによるアーチファクト（偽像）が出現し、画質が劣化してしまうことが問題です。これらのアーチファクトを低減させる手段として、①アーチファクトを抑制するための技術を用いる、②撮像を高速化させることにより、アーチファクトの出現頻度を抑制する、という2種類の方法が挙げられます。現在我々の施設ではこれらのアーチファクトを低減させる技術を用い、アーチファクトをできる限り抑制した撮影を行っています。以前の撮像とこれらの技術導入後の撮像の詳細な比較検討は十分には行えていません。そこで今回腹部MRI検査において、従来の撮像方法とアーチファクト低減技術を用いた現在の撮像方法による画質を比較検討し、それぞれの利点欠点を明確にすることを目的とし、本研究を立案しました。

本研究の対象

2017年6月から2022年12月の間で、広島大学病院にて腹部MRI検査が行われた患者さん。

本研究の期間

承認後～2024年12月31日

本研究の意義

本研究の検討結果からアーチファクト低減技術の詳細が明らかとなれば、腹部MRIにおいて状況に応じこれらの技術を適宜用いることでよりMRIの診断能をより向上させることができるようになると考えられるため、本研究の臨床的意義は高いと考えています。

研究の方法

本研究ではすでに行われている画像所見や血液検査などのデータを解析します。カルテを調べて調査することが主な調査方法です。調査項目は、患者さんの性別、年齢、採血データ、画像所見(CT、MRI、PET-CT、血管造影、胆道膵管造影画像、RIなど)、病理所見、臨床情報(既往歴、現病歴、合併症など)です。

試料・情報の管理責任者

広島大学病院 放射線診断科 教授 粟井和夫

個人情報保護の方法

- (1) 対象患者さんのカルテ, 画像に記載された個人情報はすべて匿名化した上で研究に使用しません。
- (2) 学会誌や学会での発表等, 調査結果を公表する際, 個人情報は一切公表しません。
- (3) この研究で収集したすべての情報は, この研究の目的以外では使用いたしません。
- (4) データは外部と独立したコンピューターで管理し, パスワードによるログイン機能の付加, コンピューターをセキュリティの厳重な部屋に保管します。
- (5) 収集した患者さんのデータは, 研究終了10年後すべてコンピューター上から削除, 書類はシュレッダー等で処理した上で廃棄します。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療などに不利益が生ずることはありません。

問い合わせ、苦情等の窓口の連絡先

広島大学病院 放射線診断科

研究責任者(責任者):教授 栗井和夫

研究責任者(担当者):准教授 中村優子

研究責任者(担当者):助教 赤木元紀

連絡先電話番号:082-257-5257